

ハンノキスイコバネ

春にヤマハンノキ類の葉内に潜るウジムシ（幼虫）。最大長6mm。葉内に糸状につながった糞がみられる。まれに多発する。



1. 潜葉中の幼虫。2000/5/23.



2. 幼虫，体長6mm。2000/5/23.



3. 被害葉，2000/5/23.



4. 雄雌成虫，体長約5mm。2000/4/30.

1～4. 美唄市，コバノヤマハンノキ林に発生した個体群。

【学名】 *Eriocrania* sp.

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , スイコバネガ科 (Eriochranidae)

【生態】

宿主：コバノヤマハンノキ，ケヤマハンノキ。

年1回発生。4月中下旬，冬芽が開く頃に成虫が現れる。羽化期間は4～7日。雌成虫は葉脈に産卵管を突き刺して1～4卵を産む。雌成虫の産卵期間は3～4日である。産卵後，5日ほどで幼虫が孵化する。幼虫ははじめは線状に潜葉するが，後には葉全体に広がるように潜る。6月はじめ4齢幼虫は三日月状の脱出口を開けて外に出て，土壌中で繭を作り，その中で越冬する。

翌春の4月上旬に繭内で蛹になる。

【被害と防除】

幼虫の潜葉部位は茶色に枯れて目立つ。まれに森林で発生量が多いことがあるが、実害はない。防除は普通必要とされない。

【文献】

1993. 東浦康友. ハンノキスイコバネとマイマイガの一見不合理な産卵場所選択. 東正剛, 阿部永, 辻井達一, 編集, 生態学からみた北海道: 333-340. 北海道大学図書刊行会, 札幌. (生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ハンノキスイコバネ shogarui/hansui/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/24.

higai.jpg, yochu1.jpg, yochu2.jpg, seichu.jpg

「写真1～4」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.